

## 平成28年度「中学生チャレンジテスト1・2年」における 矢田西中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成29年1月12日（木）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

### 2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- ・ 矢田西中学校では、第1学年37名、第2学年50名

### 3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語  
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

# 平成28年度「チャレンジテスト1・2年」検証シート

学校名 矢田西中学校

実施日 平成29年1月12日(木)

【第1学年】

生徒数(人)

37

平均点(点)

平均無解答率(%)

	国語	数学	英語
学校	66.1	42.3	53.3
大阪市	67.0	50.6	60.8
大阪府	68.3	52.5	62.7

	国語	数学	英語
学校	4.4	6.0	7.4
大阪市	3.6	6.2	5.0
大阪府	3.4	6.1	5.1

## 結果の概要

- すべての教科で府・市平均を下回り、数学・英語は約10ポイントの差が出た。数学は比較的上位層が薄く、英語では50点～30点の下位層が厚い。
- 領域別・観点別では、国語の「話す・聞く」、数学の「図形」や「数学的な見方・考え方」、英語の「書くこと」や「外国語表現の能力」で課題が顕著である。
- 国語は府・市平均との差が小さく、「読むこと」については府・市平均を上回っている。

## 成果と今後取り組むべき課題

アンケート結果をみると国語・数学については「内容がよくわかる」の設問で肯定的回答をした生徒の割合は府平均よりもはるかに高い。また国語の「自分の考えを書くとき理由がわかるように気をつけている」、数学の「公式やきまりを学ぶときそのわけを理解するようにしている」の肯定的回答も府平均を上回っている。さらに英語では30点未満がない。

生徒との信頼関係を重視しながら、授業でしっかり学習することを基本に、放課後や長期休業中も活用して基礎基本の徹底を図ってきた。今後はさらにいろいろな問題に慣れさせて確実に点数が取れるよう指導を工夫していく。

【第2学年】

生徒数(人)

50

平均点(点)

平均無解答率(%)

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	55.8	41.3	49.7	65.0	44.8
大阪市	56.9	46.3	49.6	59.3	51.3
大阪府	58.1	45.1	51.3	60.2	53.3

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	7.3	9.3	14.4	4.2	7.8
大阪市	6.9	9.6	13.0	5.9	7.2
大阪府	6.3	10.1	12.6	5.8	6.8

## 結果の概要

- 理科は府・市平均を、数学は市平均を上回ったが、その他の教科は市平均を下回った。
- 社会・英語は上位層が薄いことが顕著である。国語の「読むこと」、社会の歴史分野、数学の関数、英語の「書くこと」に特に課題がみられる。また、それぞれの教科で記述式問題の正答率が他と比べて低い。
- 理科についてはすべての領域・観点で府平均を上回っている。

## 成果と今後取り組むべき課題

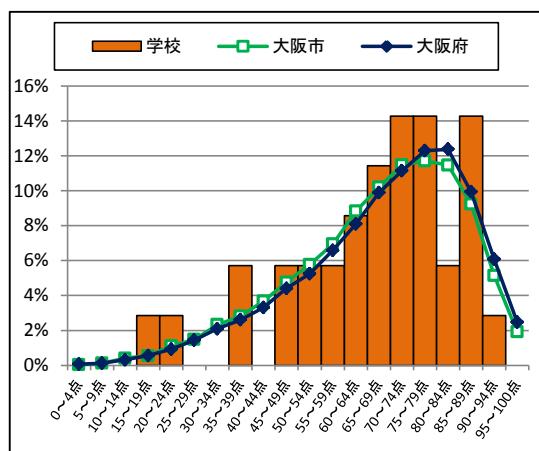
アンケート結果をみると、すべての教科で「内容はよくわかる」の設問で肯定的回答をした生徒の割合は、府平均よりも高い。

学習意欲は概ね高く、授業でしっかり学習することを基本に、放課後や長期休業中も活用して基礎基本の徹底を図ってきた。しかし、記述式問題に課題があることから、まだまだ知識の定着が不十分であったり、自分の考えを整理的確に書く力が十分でないことがうかがえる。いろいろな問題にも慣れさせ、確実に点数が取れるように指導を工夫していく。

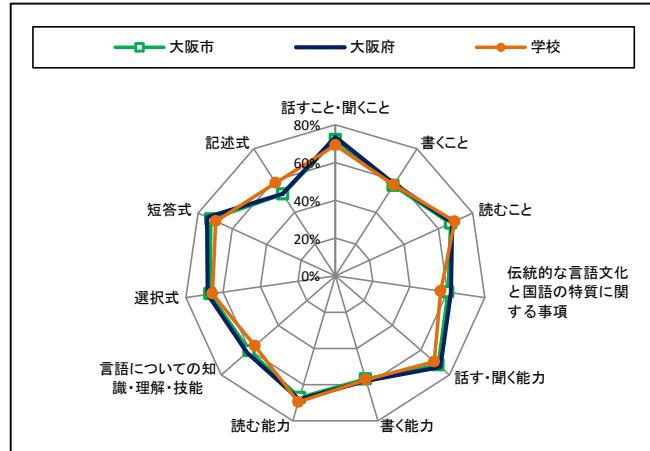
## 【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

### 【国語】

#### 【得点分布】

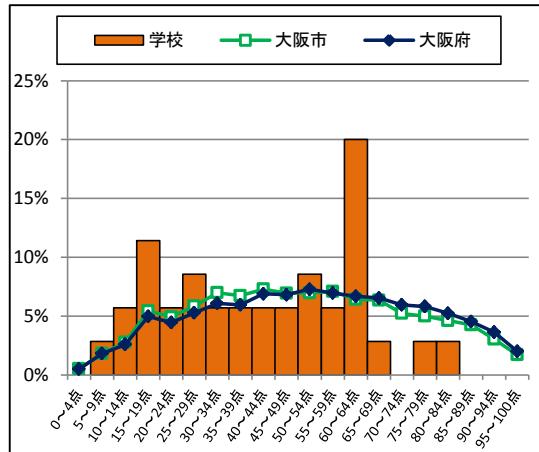


#### 【領域・観点・問題別の分布】

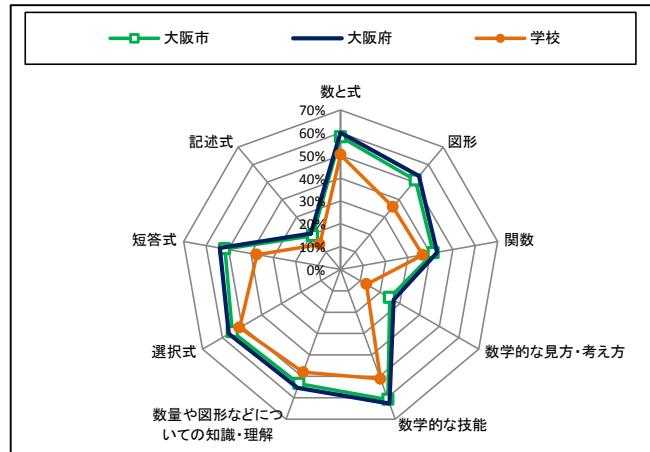


### 【数学】

#### 【得点分布】

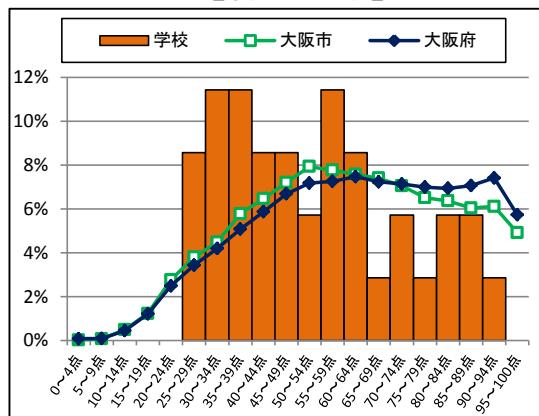


#### 【領域・観点・問題別の分布】

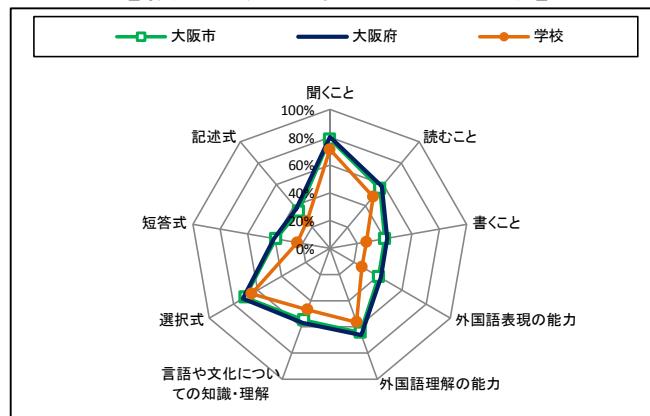


### 【英語】

#### 【得点分布】



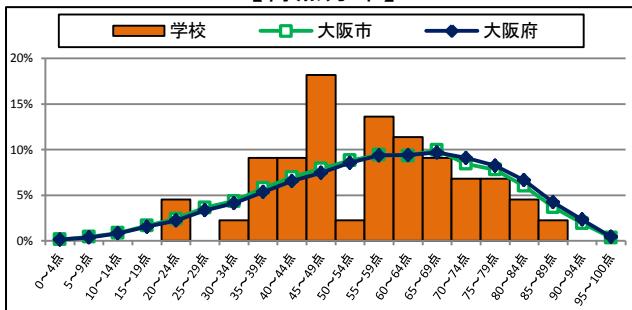
#### 【領域・観点・問題別の分布】



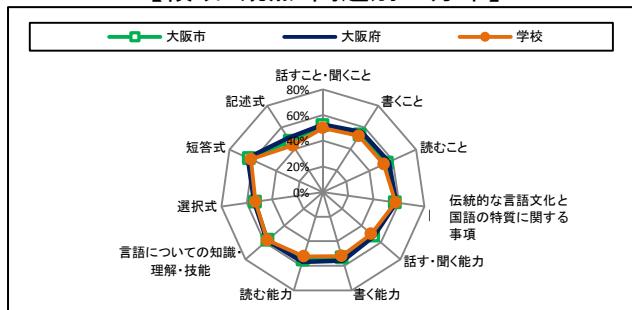
## 【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

### 【国語】

#### 【得点分布】

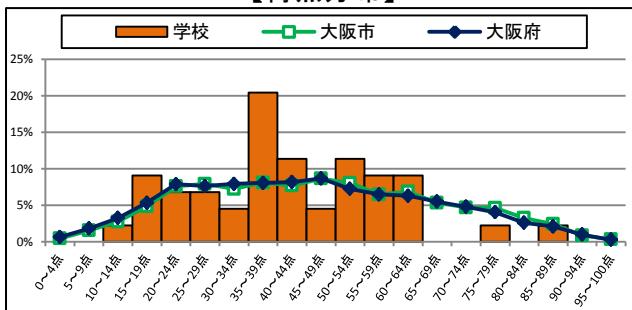


#### 【領域・観点・問題別の分布】

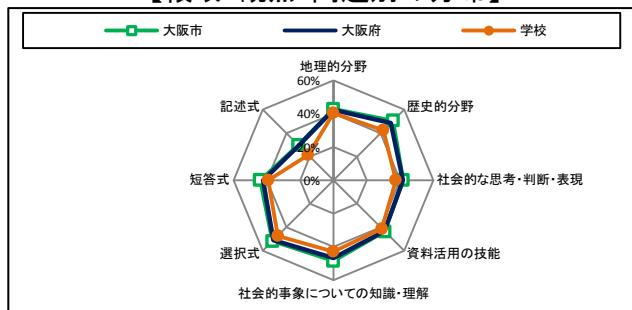


### 【社会B】

#### 【得点分布】

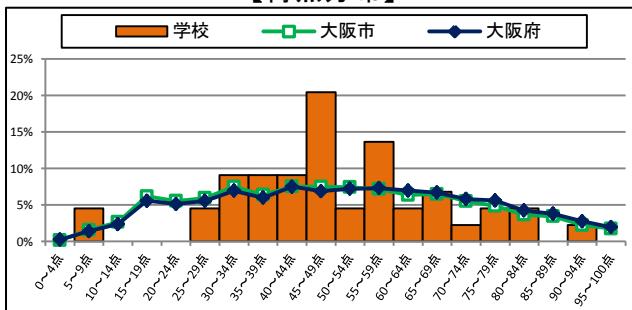


#### 【領域・観点・問題別の分布】

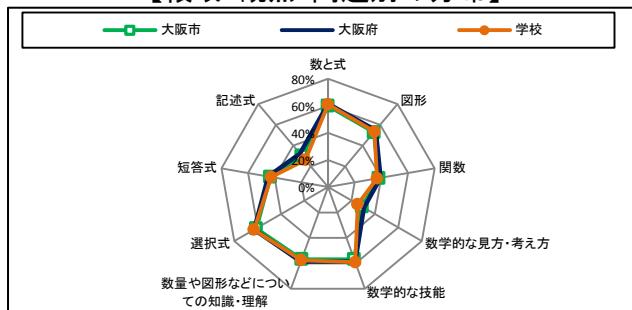


### 【数学】

#### 【得点分布】

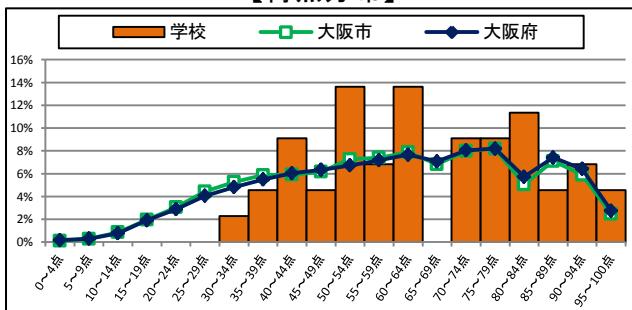


#### 【領域・観点・問題別の分布】

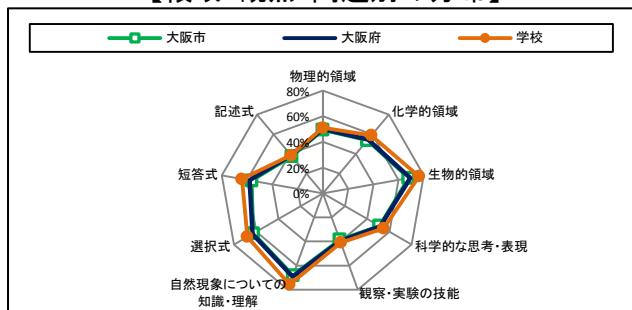


### 【理科A】

#### 【得点分布】

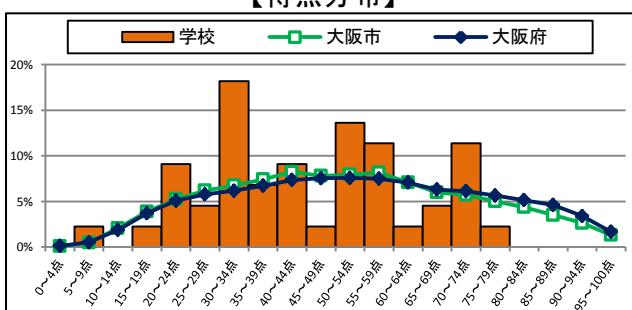


#### 【領域・観点・問題別の分布】



### 【英語】

#### 【得点分布】



#### 【領域・観点・問題別の分布】

